



みなもと小の児童に 身につけさせたい14つの力

- 1 人を大切にする力
- 2 自らの考えを持つ力
- 3 自分を表現する力
- 4 チャレンジする力

いつの間にか秋が終わろうとしています。この頃は、朝晩は冷えますが、日中は温かく晴天が続いていて、子どもたちは休み時間、元気に外で遊んでいます。また、校外学習やゲストティーチャーによる授業も青空の下、予定通り実施でき、子どもたちは楽しく活動しています。コロナも落ち着きを見せていて、このまま、終息してほしいと願うばかりです。

小中一貫合同学校保健委員会

10月29日(金)に小中一貫学校保健委員会が、白根御勅使中体育館で行われました。例年、それぞれ学校ごとに行っていましたが、小中一貫教育の関連で、白根御勅使中学校区の3校(白根御勅使中・白根百田小・白根源小)合同で行いました。児童生徒の健康実態とアンケート結果の報告と講演会が行われました。講演会では、「ゆりかごから・・・～スマホがつくる孤独、癒す孤独～」と題して、山梨県精神保健福祉センター所長の志田博和医師のお話を聴きました。「スマホやPCを成長期にやりすぎることによる脳の成長阻害のこと」や「親のスマホ使用により、子どもとのコミュニケーションが減り愛着障害を起こすこと」、「スマホを買い与えた親の責任」等について学習しました。参加したPTAの役員さんや希望参加の保護者の皆さんは、真剣な面持ちで自分自身のこと、子どもたちの将来のことを心配していました。



地域あいさつ運動

11月1日(月)に、地域あいさつ運動が行われました。例年地域の白根地区青少年育成市民会議のみなさんが、毎年2回源小学校の校門のところで行ってくれます。今年も1週間、朝の貴重な時間を割いて、子どもたちにあいさつの重要性を伝えていただきました。ご家庭でも子どもたちに、地域の方や先生方、友達に心を込めてあいさつをするようにご指導いただけるとありがたいです。



5年稲こき

1日(月)、5年生が、10月に にこにこサロンのみなさんのご指導で刈り取った稲の稲こき(脱穀)をしました。市文化財課の斎藤さんに昔の脱穀の方法を教わり、みんなで体験しながら脱穀をしました。千歯こきは、鉄の歯に稲をはさんで、引くことにより脱穀し、一度にたくさんの脱穀ができることが分かりました。足踏み脱穀機は、足で踏むことによる動力でドラムを回し、よりたくさんの稲を脱穀できたり、稲をドラムに載せるだけのより小さな動きで脱穀ができたりすることが分かりました。おじ



いちゃん・おばあちゃんの子どもの頃の作業を体験することができました。

PTA 奉仕作業

6日(土)PTA 奉仕作業を行いました。8月に予定していた作業が、蔓延防止等重点措置が出されたために、人が集まることができなくなり中止になりました。学校では、運動会に向け、校庭に生えたたくさんの草を子どもたちと先生方で取りましたが、8月に予定していた他の作業までは、



手が回らない状況でした。そこで、今回の保護者の皆様のボランティアによる作業を計画しました。家庭数の6割の保護者の皆さんに参加していただき、側溝の泥上げや整地、エアコン・蛍光灯等の清掃等を行っていただき、本当に学校がきれいになりました。ご協力ありがとうございました。特に、普段学校にあまりお見えにならない、お父さん方にたくさん参加していただき、大変ありがたかったです。

5年わかば交流



8日(月)に、本校5年生とわかば支援学校の5年生との交流会を行いました。昨年は、手紙や作品等の顔が見えない形での交流でしたが、本年度は、オンラインでつないで顔が見える交流を行いました。子どもたちは、昨年は顔を見られなかったのが、オンラインではありましたが、久しぶりに顔が見られて嬉しそうでした。源小からは、一人一人の自己紹介と学習発表会のビデオを見せました。わかば支援学校からは、手足をぶらぶらさせるダンスを見せてもらい、その後、一緒にぶらぶらダンスをして楽しみました。オンラインではありましたが、お互いの存在を意識

することができ、絆を深めることができました。今後、他の学年でもオンライン交流を行います。

1・3年防犯教育

11日(木)、1・3年生が防犯教育を行いました。テレビCMでおなじみの警備会社アルソックの方に来てもらい、不審者に会った時の注意や家に一人でのときの注意などをグループで話し合ったり、発表したりしながら学習しました。とても分かりやすく、1年生もよく理解できました。



5年国語環境学習

15日(月)に5年国語の学習「固有

種が教えてくれること」の関連学習として、環境省の金丸さんと本堂さん(本校卒業生)が、北岳などで動物による食害により植物が減っている現状やその対策についてお話をしてくれました。実際に使われている鹿を捕獲するワナを見せてもらったり、本物の鹿の骨を見せてもらったりしながら自然を守っていく必要性やその取り組みについて学ぶことができました。



「はい、パソコン出して」。先生の呼び掛けで机の脇の手提げ袋から一斉に端末を取り出す児童。電源は？ 通信環境は？ 教室内を泳ぐ筆者の視線をよそに、子どもたちはスムーズにパソコンを使い始めた▼訪ねたのは南アルプス・白根源小の教室。5年生の英語の時間は、児童が好きな昼食メニューを英語で発表、ほかの生徒が端末を使って「ヘルシーさ」「おいしそうか」をそれぞれ10段階で評価すると、結果が集約された棒グラフが教室内のスクリーンに映し出された▼政府の「GIGA(ギガ)スクール構想」によって、デジタル端末が児童生徒に1台ずつ配備された学校現場。同校でもこの春から本格的な運用が始まった▼パソコンを授業へどう取り入れるか。同校教諭は「正直言って、1学期はとにかく子どもにもパソコンを使わせることを考えていた」と実情を明かす▼感染拡大で学校が休校になった場合、児童が自宅で端末を使ってオンライン授業ができるメリットは確かに大きい。ただ、学校での日々の授業で「1人1台」をどう生かし、子どものどんな力を育むかを考えるのは教える側に課せられた「宿題」だ。そして授業のありようを考えることは、未来のデジタル社会はどんな姿かという問いにも結び付く▼端末を使うことが目的ではないんです。自らに言い聞かせるように語る教諭の表情に、試行錯誤が続く学校の今を垣間見た気がした。(有)

風林火山

山梨日日新聞社の記者(私の教え子)がコラム(風林火山)を書くために、端末(PC)を使った授業を見せてほしいと依頼があり、5年生の授業を取材してもらいました。それを基に書かれたコラムを載せました。

GIGA スクール構想がスタートして7ヶ月、学校では職員研修を行い、端末(PC)を使った授業が子どもたちにとって有益なものになるように試行錯誤しながら指導しています。コラムの最後にあるように、「端末を使うことが目的でなく、端末を使うことにより学習が深まり、子どもたちの理解が深まっていくことを期待しています。」これからも、端末を使った個別最適な学びを目指して職員研修を積み重ねていきたいと思ひます。